

全国の農福連携

静岡県浜松市での先進的な取り組みを紹介します。いずれの取り組みもユニバーサル農業のモデルとされています。

①京丸園

京丸園株式会社は、農作業の工程を細分化し、誰にでも仕事ができるようにする工夫をしています。障害の特性に合わせて農作業ができるように、農作業の機械も開発してきました。

同園の取り組みは、農園で働く障害のある方の作業領域を拡大。一つ一つの農作業を見直すことになり、法人全体の作業効率や品質向上につながっているそうです。農業経営に好循環を生むとされる障害のある方の農業参画モデルとされています。

②CTCひなり

IT企業の子会社のCTCひなり株式会社では、障害のある方が農家から請け負った農作業のほか、親会社向けに農作物や加工品の販売をしています。

農家にとって販路確保につながり、親会社はコスト削減や生産者が分かる農産物を得ることができます。都市と地方を結ぶ障害のある方の農業参画モデルとされています。

開け、金ゴマでミライ。

「農福連携」という言葉を知っていますか。

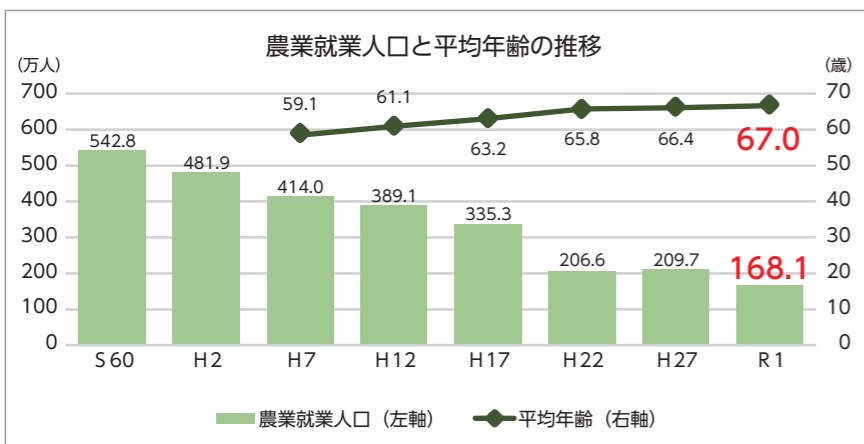
農福連携とは、農業と福祉が連携し、障害のある方や高齢者が農業の分野で活躍することを通じ、社会参画の実現と農業の発展を促す取り組みのこと。雇用機会や収入の確保につながるとされ、近年、全国で取り組みが広がっています。

西脇市では、平成29年から市内の就労継続支援事業所や日本のへそゴマ研究会などとともに、農福連携の取り組みを開始。金ゴマを育てることから始まり、昨年には加工品作りにも挑戦しています。

土作りから収穫、そして加工品作りまでに至る4年目の取り組みをレポートします。

◆問合せ 農林振興課（市役所内線319）

畑一面に実った金ゴマを収穫（小型無人機で撮影）



出典：農林業センサス、農業構造動態調査（農林水産省）

たな農業の担い手として期待されています。この農福連携は、自治体や企業が農園の管理や農作業などの請負サービスを通じて、障害のある方や高齢者などに働く場を提供するものです。国や県は農福連携に対して補助金を出し、取り組みを後押ししています。

農福連携は、障害のある方の雇用機会や収入の確保だけでなく、遊休農地と人手不足の解消にもつながるとされています。

新たな担い手に福祉の力

このような中、福祉事業所が新

「農林業センサス」（農林水産省）などによると、全国の農業就業人口は令和元年が168万人余りで、昭和60年（542万人余り）から7割近く減少。農家の平均年齢は67・0歳（令和元年）と、高齢化が進んでおり、今後さらに労働力不足が深刻化すると考えられています。左表。

農業従事者の高齢化や後継者不足によって、全国的に農業の就業人口が減っています。それに伴って、農作物の栽培面積が小さくなり、耕作放棄地が増えています。農業は農作物の生育期間中に、作業量が少ない傾向にある一方で、は種期（種をまく時期）や収穫期は極端に作業量が多くなるなど、季節によって作業量が大きく変化します。また、農作物は天候や病害虫などの自然条件によって収穫量が変わり、価格が安定しません。さらに、傷みややすいものは、輸送から販売に至る流通過程で時間や範囲に制約があります。これらのことが要因となり、他の職種に比べて、人材の確保が難しいことが問題となっています。

農業の担い手不足



◀◀花の甘い香りに誘われてハチが飛来
 ◀シカやイノシシも大敵。侵入防止に畑の周囲に電気柵を設置



統計開始以来初となる8月の降水量がゼロに。大粒の汗を流しながら作業にいそしむ

経験は一般就労への道

市の特産品に関わることができ、大変うれしく、誇りに思います。太陽の下で作業することは、利用者にとって精神的にプラス。地域の皆さんとともに取り組み、楽しい思い出になっています。このような就労経験を通して、利用者の一般就労への道が開けます。



シャイン
 特定非営利活動法人スポーツアカデミー Shine
 ドリームボール
 代表理事 **竹本 武志** さん

農作業が楽しい

屋外での作業が好きで、参加を決めました。農作業は楽しく、私たちが作った金ゴマで、クッキーができることは自慢になります。皆さんにおいしいクッキーを届けられるように、これからも頑張って、金ゴマ作りに取り組んでいきたいです。



特定非営利活動法人スポーツアカデミー Shine
 ドリームボール
 利用者代表 **藪本 光明** さん

金ゴマ栽培に挑戦

西脇市でも、農家や兵庫県加西農業改良普及センターなどの協力を得て、平成29年度に就労継続支援事業所とともに農福連携を開始。生産量が少なく、需要が見込める市の特産品・金ゴマに着目し、住吉町にある農地で金ゴマの栽培に取り組みこととしました。

本市では、日本のへそゴマ研究会が土作りや種まき、収穫など、作業工程の一部を事業所に委託。事業所を利用する皆さんが、農家とともに栽培するものです。

援農の体制づくり

取り組むのは、黒田庄町喜多にある就労継続支援B型の「ドリームボール」。ドリームボールは約20人を受け入れており、障害のある方が働きながら技能を身に付け、一般就労を目指しています。

農業にはさまざまな作業があることから、一人一人の適正に応じた仕事とマッチングさせることができるという利点があります。市では研究会や事業所とともに、農作業に対する利用者の向き・不向きを検証しており、将来的に事業所が農家から農作業の一部を請け負うこと（援農）ができる体制づくりも進めています。

金ゴマ成長記



R 2.6.10

18㍓の畑で、金ゴマ栽培を開始。新型コロナウイルスの影響で、当初計画から1カ月遅れた。



R 2.6.10

畑一面に石灰と鶏ふんをまいて、土作りの作業。この日は昼から雨が降り、近畿地方が梅雨入りした。



R 2.6.22

梅雨入り後、連日雨模様であったが、この日は梅雨の中休み。農機でうねを作り、マルチを張った。等間隔に空いた穴に農機から数粒の種がまかれていった。



R 2.6.22

正しく種がまかれているか、穴を一つ一つ確認。種が足りていない箇所には追いまきして回った。じょうろで水やりし、多めの水を与えた。

おいしいクッキーが完成

クッキー作りを指導

利用者の皆さんは、とてもまじめで熱心。加工品の開発に一生懸命に取り組んでいました。皆さんの頑張りで、おいしいクッキーに仕上がりました。これからも心を込めて、丁寧に作ってほしいです。



ケーキ工房atelier M
蓮池 昌美 さん



▲金ゴマクッキー 60^円300円。インターネット販売サイト「+NUKUMORI（プラスぬくもり）」でも販売中
▶金ゴマのチュールを試作中。来春からの販売を目指す



金ゴマクッキーの出来に笑みがこぼれるドリームボールの利用者ら

開く、次のステージ。

ドリームボールは利用者の発案で、昨年から金ゴマを使ったクッキーを販売しています。金ゴマの生産を担当する屋外作業グループだけでなく、新たに開発した加工品を製造することによって、より多くの利用者が取り組みに関われるようになりました。

金ゴマ栽培から始まった農福連携によって、皆さんの活躍の場が広がっています。

市を代表するお土産を

利用者の「私たちが栽培した金ゴマを地元の皆さんに食べてもらえる機会をつくりたい」という声

から、ドリームボールは平成30年10月、金ゴマを使った加工品の開発に着手しました。合言葉は「市を代表するお土産を作ろう」。

屋内作業を担当する皆さんが、金ゴマのほか、イチゴやサツマイモのクッキーを提案。市内で洋菓子製造する蓮池昌美さんの指導を受けながら、試作を重ねました。その後、兵庫県北部農業技術センターなどの協力のもと、10種類の加工品の食味や水分活性の検査を実施。検査結果や周囲の助言をもとに改良を重ね、味や色、保存性西脇らしさなどにこだわった「金ゴマクッキー」と「イチゴクッキー」の2種類を完成させました。

県の補助金を活用して、加工場となる「ドリームキッチンTom（とも）」を整備。営業許可を取得し、平成31年2月に販売に至りました。

香り高いクッキーに

クッキーはすりゴマと粒ゴマが使われており、金ゴマをぜいたくに楽しめるのが特長。開発段階から参加し、製造に携わる山本智行さんは「金ゴマ特有の香り高い風味を楽しんでほしい」と話します。クッキーは、道の駅北はりまエコミュージアムや北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」で販売中です。



R 2.7.8

全体の9割程度が発芽。その長さは10^{センチ}ほど。黒いマルチから青々とした葉をのぞかせていた。連日の雨で、畑はかなりの水分を含んでいた。



R 2.8.1

取材前日に近畿地方が梅雨明け。ゴマの花が咲き始めた。葉は深い緑色になり、茎は30^{センチ}から50^{センチ}ほどに。場所によって成長の差が大きくなってきた。



R 2.8.12

この日は追肥作業。うねに合わせて、鶏ふんをまいた。定期的な成長を確認しながら、草引きとタバコスズメガ（ゴマムシ）の駆除を行った。真夏日や猛暑日が続く、金ゴマはどんどん成長した。



R 2.9.28

順調に成長を続け、茎は高いもので2^{メートル}を超えてきた。収穫まであと少しとなり、取材翌日、茎の葉を取る「葉取り」作業を行った。



▲金播磨は北はりま農産物直売所「北はりま旬菜館」などで販売中

金ゴマの魅力

市の特産品の一つである「金ゴマ」。西脇市産の金ゴマは「日本のへそゴマ」と呼ばれ、「金播磨」として商標登録しています。色も風味も良いことから、市内外から高い評価を受けています。金ゴマを扱う方にお話を伺い、その魅力に迫ります。

金ゴマの特長は？

ゴマの99・9%が輸入品であり、国産品は200ト足らず。国産の金ゴマは希少価値が高いものです。西脇市産の金ゴマは無農薬。有機質肥料が使われていることも特長の一つです。栄養価が高く、機能的食品に位置付けられています。

栽培のポイントとは？

金ゴマ栽培は機械化が難しい一方で、機械を持っていないでも取り組めるという利点があります。収穫後にゴマを乾燥させる施設が必要ですが、他の作物と比べて栽培しやすいと思います。「日照りゴマに不作なし」という言葉どおり、気温が高くて乾燥している状態が、良質なゴマを作るポイントです。



兵庫県北播磨県民局
加西農業改良普及センター
地域課 担当課長補佐
高橋 寛之さん

使い始めた経緯は？

「金ゴマ栽培は難しい」と聞いて、農家の皆さんの努力を形にしたいと思い、洋菓子に使い始めました。現在は「西脇多可福焼き金ごま最中(もなか)」と「ふわっと芳(かお)る西脇銘菓」として販売しています。



▲金ごま最中(195円)はゴマの風味が豊かな焼き菓子

洋菓子に使う良さは？

金ゴマは香り豊かで、油の出方がまろやか。洋菓子にとっても向いていて、使いやすいです。ぜひ皆さんに味わっていただきたいです。

生産者へメッセージを

栽培が難しく希少な金ゴマを使わせていただいていることに感謝しています。今後もお客さまに金ゴマの良さを知ってもらえるよう、お菓子作りに取り組んでいきたいです。



洋菓子店kajitsu
パティシエール
神菌 優貴さん

金ゴマ作り、始めませんか。

25人の金ゴマ生産者でつくる「日本のへそゴマ研究会」は、新たに金ゴマ栽培を始める方へ、無料で種を配布しています。栽培に関する講習会や意見交換会も定期的で開催していますので、お気軽にご相談ください。詳しくは、みのり農業協同組合西脇営農経済センター、または市役所農林振興課へお問い合わせください。

みのり農業協同組合西脇営農経済センター

住所：西田町189-3
電話：22-5955

動画サイトも開け、ゴマ。



広報紙に掲載した農福連携の取り組みを動画でもご覧いただけます。約8分の動画にまとめています。
「見る広報」でもお楽しみください。
<https://www.city.nishiwaki.lg.jp/kakukanogonai/toshikeieibu/jisedaisouseika/CityPromotion/videolibrary/CityCM/22239.html>

茶褐色のさやを叩いて、金ゴマを落とす。ふるいにかけて不純物を取り除き、唐箕(とうみ)を使って、より細かな不純物を除去。選別作業を繰り返し、いよいよ出荷へ。4カ月間にわたる金ゴマ栽培が完結。



2日間かけて金ゴマを刈り取った。ゴマの茎を立てかけて、2週間ほど乾燥させた。

